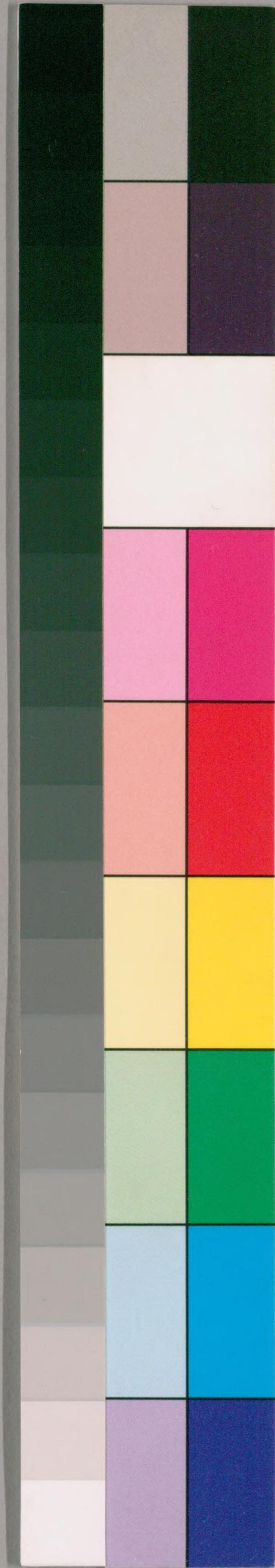


俳諧一串抄附言

858
80



折つて反覆して意を返すもの多し示波の余情を備ざるあり。これ歌
の性を變て俳諧といふ一名の素もあらんあり。且駁者ハ切と示波や
縁とよ一物とあつてもその由。それ切と縁の意の異なる所あり。示
波と其所する所を續するや一語ひくればさきとていひもちむるあり。今
こゝを承とす

郭公切正月ハ梅ハの花盛

木曾切の情切雪ハや生ハぬく春ハの草ハ

萩ハの夢切や秋ハの口ハのりハ

破風ハは日ハ朝ハや夕ハ納涼ハ

松茸ハやあつた木ハを魚ハのりハ

菖蒲ハ生ハる朝ハの鯛ハは鯛ハ

け切の所一句は服と縁は所する意を生きてあるか及反覆の妙なる
中本ハ切ハは解て詳ありされを俳諧ハ三十一字を越して十七字不活し。
函のまゝもかき添ん 雅言を轉して俗語に働かぬ。さうの中も余りうらむ 也あつた能
首まゝとい

諧ハ歌の乃以敬して遠くあるものありまゝハ呆園なる人駁書以
寄せ。それが中に文字は差する或々復實を論える等ハ省き。只學者
の損益よ与るゆは其異と撮んで載り。正當無名乃駁也。此説受雅志。
吉野松島の吟も兼て之を實境とせたる人々を感はる也。かの猛虎
小出合する人。虎の彫物くはとみと笑ふが妙。真の虎は人々ハ
猫の彫きくはとみとみ。只一吟して先藝のまゝといふは序
ある丁の駁ハ俳諧は松ぼほの藤漏る心腹も。序ハ断るくはとみとみ
あつても無用の禱あるをゆもはざらう。却て海をひもきくと
いひ或ハ凡そ句はるを人々賞詠花藝の爲らるべし。何の爲ぞやとい
ハ切字四の駁ハ切字ハ一句の成就あり。先別あり疑ありとももあつた
教てこそ初学ハ入安られ。今無用の毎もさうむとて夜能諧は詠く古



文辭の大端小達知せざるが故歟。俳諧歌論ハ世ニ公然として俳諧正正一
家の名と好む。然るに汚名を受けて一言此報あり。黙して畏て鹿漏者の看
とる。これ何の心をや。疾それと多し。恐ひを蕉白に依りて体格滑稽人の行状と俳諧の字義と蕉白と
三たの格を用く。若此格無人を何とら以り俳論を撰ん。拙ふは格挑チカまか立ざる
名ありて蕉白は無用とす。亦格を究るハ俳諧の爲なり。義と述るよ
あつて何ぞ挑まが言の無又流らん。まゝ切字ハ古人の書まゝ申すべし
物ハ先達何ぞ區マキの説りや。區マキいりて切字此用ハ此さざる。故
あり。他の區ありあつて。あつて駁者ハ同門中葎雲。現ハ異説あり
何ぞや。まゝ松嶋駁者ハ挑まを信じて俳諧を信せざる。いり。亦いり
松島を知りて。まゝぬぬと信じて。歌連歌連の於て。俳のまゝあり
故に記して人と導く。是言ありといふ。と信するハまゝ本抄の主意也。あつて誤テ

の向ハ拙解ハ罪人の咎とや。而して自解あり。は向ハ素人ト多し。
説者説者まゝのまゝ松島高上理外あり。いりて敬して向と並され。おま
まんと學者何の益ありん。本抄の解を當者いりて。一串
一列一列解て終る。いりて。識者両端の益とけり。まゝ「花の雲」向
駁ふ。まゝと曇れいりて。巧拙いりて。まゝ。是駁者物乃
序と序茂茂むるの證あり。世俳諧ハ大厄あり。それ奇ハ向の序とた。ち
以伸ハ。俳諧ハ序とあらう。まゝい。海も及む。いりて。まゝ。あつて。
ハ序と私あり。て。世ハ不通の向とら。名通りる。あつて。却て。いりて。歌々歌
俳ハ俳歌人の如く。知りて。いりて。これ俳諧ハ。免待歌の中ハ活潑也。あ
あつて。と。まゝ。あつて。今世とて。色奇人と。適テキとせ。誰か。あつて。
俳諧ハ。旗とらん。斯い。とて。歌人俳向。まゝ。あつて。いりて。あつて。



本町
石
萬葉堂
十軒店

其具合約合のこけりけり。本抄の巻にて詳あり。先人のあはれを後
人身り。若具合分屋を差つて誰うこれを受んされむ。駁者雲と墨
と混ぶて其帰類を辨せし。いづれ高上妙所との小人九赤人の違ふ
物証はうらんや。後の人解て程ゆなり。拙者何人ぞや。あかきこと
人の面もあかきこと。其の人の益あり。只本抄の巻を是とす。

服士哥と解さげとのみねをり。歌人

ハ兵一旬始未の際よ。於て世は通不通の状と知る者あり。一旬始未此際と云。

五七八の辞ふ會む映應あり。映應のかたち。さや。だてんを蓮と折て

糸を連るが如し。折るは二折あり。連るは覆るあり。さや。ハ兵筋と為絲。事物の序は後。他者

れ意は趣く。或ハ事と以て比するあり。百髪ぬく。枕の中や。蜚。これ老ても。於世は愛以

まゝ。物と以て興するあり。食の寒苦さ。いふをみせし。小野小町の盛衰を感し。を

類ふ後て轉するあり。梅も一枝のみをきわ。情と以て選まらる。花の火も。時あらず。最の身。こ

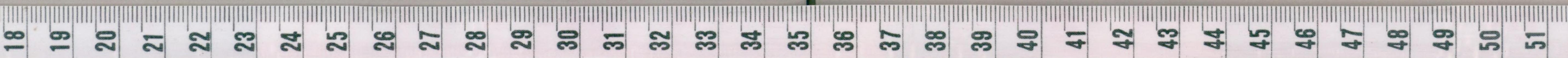
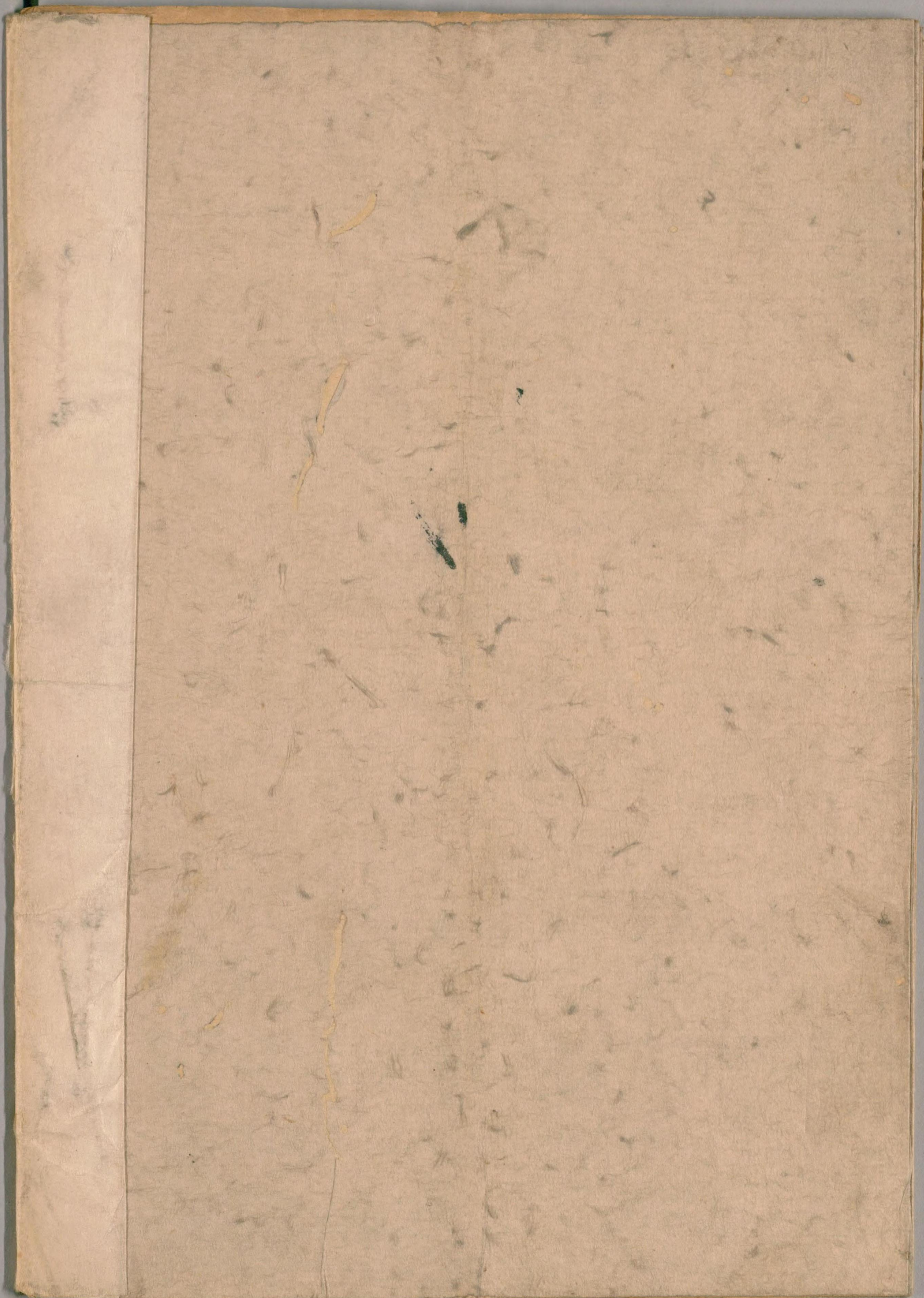
情の倦。義と以て定む。山吹や。守流の長者の年の宿。これ金と以て山吹のまき。たて。義

の向くれ。御言と借て。早稲の香や。入里ハ有後。海。これ唐。まき。本年の言のま。御言のせ。花

未の字等。あ。さ。れ。の。映。應。あ。る。若。早。稲。の。香。と。梅。と。あ。ら。せ。む。を。花。の。い。た。づ。中。と。あ。ら。ん。こ。の。映

應。親。疎。向。背。あ。ら。せ。む。の。勝。者。ら。ら。せ。む。道。志。保。た。せ。む。も。映。應。の。存。う。づ。情。の。待。合。む。も。不。没。此。背

け。心。舟。の。心。の。序。と。松。小。丸。成。て。花。の。い。た。づ。月。の。い。た。づ。水。結。と。あ。ら。せ。む。の。い。た。づ。む。む。む。け。外。色。に。映。け。小。鹿。の。鹿。



国立国会図書館 タイトル『俳諧一串抄附言』 請求記号 858-80

ガラス使用